Special Feature

★昭和の名盤、珍盤、稀少盤～シングル・レコード特集★

2011 年 11 月 2 日付の米 iTunes ジャズチャートで 1 位、カナダ iTunes ワールドミュージックチャートで 1 位など各国のランキングで上位にランクインするなど、1963 年に米ビルボードで1位を記録した坂本九の「SUKIYAKI（上を向いて歩こう）」以来の日本語作品の世界的ヒットを記録している由紀さおりと米ジャズ・グループ「ピンク・マルティーニ」との共演アルバム『1969』（P10 参照）。この奇跡の出会いは、ピンク・マルティーニのリーダー＝トーマス・ローダーデールが 1993 年に米国ポートランドの中古レコード屋で偶然見つけた由紀さおりの 1st アルバム『夜明けのスキャット』の LP レコードのジャケットのヴィジュアルに魅せられたことがきっかけだった。

今や昔のレコードに取って代わった CD さえも、ネットを通じての音楽配信・ダウンロードの勢いに押されつつあるが、LP レコードと肩を並べるように昭和の時代に親しまれたのがシングル・レコードだった。「EP 盤」「ドーナツ盤」とも称されたシングル・レコードはアナログ式の録音盤で、直径 7inch（17cm）サイズのもので、1949 年に直径 12inch（30cm）の LP レコードに対抗して RCA ビクターが発売したのが最初と言われている。80 年代には、1 曲の長さや収録曲数がシングル・レコードより多い 12inch シングルと呼ばれるものも登場した。シングル・レコードは「A 面」「B 面」として片面ずつ録音され、A 面曲をメインとしてヒットを狙たものだったが、「両 A 面」としてダブルヒットを狙うものもあった。

シングル・レコードの一番の魅力はジャケット写真。当時は洋楽ものも当たり前のように発売されていたが、欧米の人気アーティストたちのカッコいい写真と独特の色合い、そこにカタカナや漢字で刻まれた日本語とのコントラストが何とも素敵だった。ジャケットだけでも伝わる芸術性は、現代の CD やダウンロードではけして味わうことのできない感動があった。

今号の巻頭特集は昭和の時代を飾った名盤、珍盤、稀少盤を≪名優≫≪お笑い芸人≫≪プロ野球選手≫≪プロレスラー≫≪女子レスラー≫≪闘う男たち≫のカテゴリーで紹介するシングル・レコード特集！　YouTube で音源を聴ける作品も多く、魅力的なジャケット写真と共に、奇抜で思わず笑ってしまいそうな B 面のタイトルにも注目して欲しい！

懐かしの一枚に出会える お薦め書籍

あの大瀧詠一や山下達郎も名盤、珍盤、稀少盤好きとして知られているが、毎週金曜日の深夜にテレビで放送されている『タモリ倶楽部』のミニ・コーナー「空耳アワー」などは音源から名盤、珍盤、稀少盤を発掘するにはとても勉強になる。ここ最近昔のシングル・レコードを様々な角度から紹介する書籍を見にする機会があったので、名盤、珍盤、稀少盤を紹介する前にお薦めの書籍を紹介したい。シングル・レコードのジャケットをアートやデザインという観点で紹介しているもの。懐かしの日本盤オールディーズのシングル・レコードを紹介しているもの。コミック・ソングを特集したもの。シングル・レコード登場以前に親しまれていた SP レコードを特集したものなど、どの書籍も眺めているだけで楽しく、ノスタルジックな気分を味わえる。

ドーナツ盤ジャケット美術館 by MURO
（著）MURO
（リットーミュージック）

2010 年発売。国内・欧州を中心に 7inch ジャケットを「映画館」「警察官」「昭和館」「太鼓館」「男漢」「秘宝館」「違和感」「圧巻」のキーワードで楽しめるレコ・ジャケ本。

日本盤オールディーズ・シングル図鑑 1954~1964
（著・編集）菅田泰治
（（株）シンコーミュージック・エンタテイメント）

2011 年発売。1954 年～ 1964 年までの日本で発売された 4000 枚のロック＆ポップスのシングルをほぼコンプリートに紹介した一大カラー・ジャケット・コレクション。

コミックソングレコード大全ー爆笑音盤竜巻天国
（監修）高田文夫
（白夜書房）【現在絶版】

2002 年発売。『笑芸人』編集長でもある高田文夫が監修した明治～大正～ 2001 年までの「爆笑音盤」約 2000 枚を紹介。残念ながら、現在絶版状態…再販に期待。

昭和のレコード デザイン集
（著）山口 ‘Gucci’ 佳宏、鈴木啓之
（P ヴァイン・ブックス）

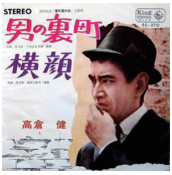
2011 年発売。1950 年代～ 70 年代のユニークで秀逸な国産レコードのジャケットをアートの視点で紹介したデザイン集。和文と欧文の混在も楽しめ、資料としても貴重。

SP レコードーそのかぎりない魅惑の世界
（著）志甫哲夫
（ショパン／ハンナ）

2008 年発売。1948 年頃に登場して、シングル／ LP レコードに移行する 1950 年代後半まで庶民の間で親しまれた SP レコードの魅力を紹介した貴重なレコード史。

名優が残した シングル・レコード

正直、今の時代の俳優さんよりも昭和の時代の俳優さんの方が風格や重みがあって、近寄りがたい雰囲気というか威厳というか強烈な個性と異彩を放っていた気がする。歌を歌わせても演技同様に独特の個性丸出しで、多くの渋いシングル・レコードが残されている。女優でも吉永小百合や松坂慶子などの歌声も有名で、元々歌手としてデビューして「ブルー・ライト・ヨコハマ」を大ヒットさせ、後に女優となったいしだあゆみや、やはり後に女優になったキャンディーズの田中好子のような例もあるが、さすがに俳優さんだけあってジャケット写真も味わい深くて渋い。シングルだけでなくアルバムの名盤も多く、ここに紹介した作品以外にも名優が歌ったシングルがたくさんの残されているので、機会があれば隠れ名盤を探してみて欲しい。



男の裏町
高倉健
（キング：BS-270【現在廃盤】）

1965 年発売。B 面は「横顔」。健さん主演の東映映画『裏町番外地』の主題歌。健さんのヴォーカルにも渋れるが、ジャケットにも惚れる一枚。正に男の名盤です。

シンボルロック
梅宮辰夫
（テイチク：A-63【現在廃盤】）

1970 年発売。B 面は「夜は俺のもの」。『帝王シリーズ』がヒットした頃の梅宮辰夫の一枚。歌詞は子供達には聴かせづらいが名曲。B 面のアニキ的なタイトルも凄い。

前略おふくろ
萩原健一
（ワーナー・パイオニア：L-87E【現在廃盤】）

1975 年発売。B 面は「酒と泪と男と女」。ドラマ『前略おふくろ様』から生まれ、女優田中絹代追悼盤として発売された一枚。B 面共々、ショーケンのヴォーカルが最高。

DISCO 翔んでる寅さん
渥美清
（日本クラウン【現在廃盤】）

1979 年発売。B 面は「寅さん音頭」。2010 年に CD 化された一枚。『男はつらいよ』シリーズのイメージソングで完全なディスコ・サウンド。寅さんは名台詞を語る。

カリフォルニア・コネクション
水谷豊
（フォーライフ：FLS-1044【現在廃盤】）

1979 年発売。B 面は「僕らの時代」。自身が主演した人気ドラマ『熱中時代・刑事編』の主題歌として使用され、65 万枚を超す大ヒットを記録した水谷豊の一枚。

お笑い芸人が残した シングル・レコード

古くは“喜劇王”と呼ばれたエノケンの時代から、お笑い芸人、コメディアンたちのシングル・レコードはごく普通に発売されていた。元々バンドマンでヒット曲を連発していたクレイジー・キャッツやザ・ドリフターズは別格の存在だが、80 年代前半の漫才ブーム～大人気だったバラエティ番組『オレたちひょうきん族』の頃をピークに、その後の CD 時代にもとんねるずがヒット曲を連発し、ダウンタウンなども歌っている。シングル・レコードだけでなく、アルバムも多く発売されているが、舞台やテレビで常に声を張っていること、自慢のギャグやネタで培った表現力によって、その歌声はプロ顔負けの人たちも多かった。また、シングル・レコード化されず、アルバムでのみの収録曲だが、ビートたけしが歌った「浅草キッド」は永遠の名曲です。

スーダラ節
ハナ肇とクレイジー・キャッツ
（EMI ミュージック・ジャパン【現在廃盤】）

1961 年発売。B 面は「こりゃシャクだった」。クレージーキャッツが爆発的な人気を得るきっかけとなった一枚。演奏は宮間利之とニュー・ハード・オーケストラが担当した。

恋のほんちシート
ザ・ほんち
（フォーライフ：7K-11【現在廃盤】）

1981 年発売。B 面は「オーバーチュア・海」。80 年代前半に一世風靡したザ・ほんちの売上 80 万枚、オリコン最高位 2 位を記録した一枚。武道館も満員にしました。

いたいけな夏
ビートたけし
（ビクター：KV-3010【現在廃盤】）

1981 年発売。B 面は「裏切者ツービート」。今や映画監督として世界的地位を確立した北野武がツービート時代に放った一枚。夏のポップン・ロール歌謡的な快作。

IEKI 吐くまで
片岡鶴太郎
（キャニオン：7A-0637【現在廃盤】）

1986 年発売。B 面は「床上手」。今や画家として大活躍の鶴ちゃんがお笑芸人時代に放った快作。演歌調にこぶしを利かせた歌に歌詞も最高！　隠れ名盤です。

一気！
とんねるず
（ビクター：SV-7459【現在廃盤】）

1984 年発売。B 面は「バハマ・サンセット」。とんねるずの人気を決定付けた一枚。作詞は AKB48 やその派生グループの総合プロデューサーでお馴染みの秋元康。

プロ野球の名選手が残した シングル・レコード

昭和の時代なら、ダルビッシュやマー君、おかわり君、場合によってはイチローや松井たちの歌声もシングル・レコード化されていたに違いない。昭和の時代はそのくらい人気プロ野球選手のレコードが出回っていた。歌ではないが、長嶋茂雄の引退セレモニーもそのまま LP レコード化されていた時代。各チームから多少なりとも歌に自信があるほとんどの人気選手はレコード会社からアプローチされていたに違いない。テレビでもお正月にプロ野球選手の歌合戦なんていう番組も毎年のように放送されていた記憶があるが、今の時代と違って露出が極端に少なかったパ・リーグの選手のレコードがほとんど残されていないのは寂しい限りだ。名選手の歌声と共にジャケット写真に写る見慣れたユニホーム姿と異なるファッション面にも注目です。

白いボール
王貞治
ジャケット提供：日本コロムビア【現在廃盤】

1979 年発売。B 面は「闘魂こめて」。元々 1965 年に発売され、1977 年にホームラン世界記録の記念として再発されたー枚。王さんの真面目な人柄が滲み出ています。

街の灯がゆれる
星野仙一
（ビクター：SV-7187【現在廃盤】）

1981 年発売。B 面は「しのび逢い」。闘将、星野仙一が中日のエースとして活躍していた時代に放ったー枚。ジャケットで思い切り煙草を指に挟んじゃっています…。

うわさのセクシークイーン
高橋慶彦
（徳間ジャパンコミュニケーションズ（廃盤））

1981 年発売。B 面は「ハッピー・ナイス・ディ」。甘いルックスで女性ファンも多かった元広島東洋カープの高橋慶彦のー枚。プロ野球選手と思えない軽さが充満です。

愛してヨコハマ
平松政次
（エルボン：BON-32【現在廃盤】）

1982 年発売。B 面は「ごめんね洋子」。歌も上手く、後に伍代夏子と「夜明けまでヨコハマ」もリリースした大洋のエース平松政次が現役時代に放ったー枚です。

どこまでも愛
原辰徳
（バップ：10069-07【現在廃盤】）

1982 年発売。B 面は「サム」。原辰徳が現役時代に放ったー枚。若大将のニックネームからか、加山雄三のヒット曲のようなサウンドが爽やか。B 面は愛犬の名。

プロレスラーが残した シングル・レコード

プロレスといえば、レスラーが登場の際に流れるそれぞれのテーマ曲も強烈なインパクトがあり、カッコいい曲も多かった。元々モハメド・アリの伝記映画の主題曲で、後に友情の証としてアントニオ猪木に贈られ、シングル・レコード化された「炎のファイター」は有名だが、テーマ曲とは別にプロレスラー本人が歌ったシングル・レコードも意外に多い。ここに取り上げた 5 作品はその一部で、歌が上手いと評判だった木村健吾などは別として、自ら志願して歌ったというよりは、無理やり歌わされた感が強いのは否めない。ちなみに、ジャイアント馬場はシングル・レコードは出していないが、唯一 1968 年の興行で先着 5000 人に無料配布された『われらのチャンピオンは歌う』というアルバムの中で「満州里小唄」という歌を残している。

赤鼻のトナカイ
デストロイヤー
（ビクター：JRT-1398【現在廃盤】）

1974 年発売。B 面は「ジングル・ベル」。あの力道山とも名勝負を繰り広げた人気覆面レスラー“白覆面の魔王”こと、デストロイヤーが放ったクリスマス・シングル。

エマの面影
マイティ井上
（ビクター：SV-7415【現在廃盤】）

1984 年発売。B 面は「乃木坂ナイト」。名脇役＆玄人好みのレスラーだったマイティの一枚。いったいエマが誰なのか気になって仕方ないが、B 面のタイトルも粋だ

らしくもないぜ
木村健吾
（クラウン：CWA-311【現在廃盤】）

1985 年発売。B 面は「紅の別離」。歌の上手さでは評判だった健吾のー枚。タイトルだけでも必殺技「稲妻レッグラリアート」以上のインパクトが。渋過ぎます。

マッチョ・ドラゴン
藤波辰巳
（ポリドール：7DX-1391【現在廃盤】）

1985 年発売。B 面は「ドラゴン体操」。プロレス・ファンの間では超有名なー枚。音痴という表現など超越した藤波のヴォーカルが衝撃的だが、人間味に溢れている。

明日の誓い
長州力
（キング：K07S-10112【現在廃盤】）

1986 年発売。B 面は「パワー・ホール」。作曲はあの宇崎竜童。歌唱力もライバル藤波辰巳と肩を並べ、「切れてないですよ」と言いたくなるー枚だが、曲はカッコいい。

女子レスラーが残した シングル・レコード

女子プロレスが全国的人気を獲得したのは、フジテレビで毎週日曜日の夕方に放送されていた中継（志生野温夫さんの解説も懐かしい…）で、その中でも 1976 年に歌手デビューしたビューティ・ペアが歌った「かけめぐる青春」の大ヒットがきっかけだった。その後クラッシュ・ギャルズ辺りまでがピークだったが、ビューティ・ペア以降、人気レスラーたちが次々とレコード・デビューし、リング上で四方八方から投げ込まれる紙テープの中、マイク片手に歌を披露することが定番となって、女子高生を中心に大ブームとなった。さすがに悪役レスラーがリングで歌を披露することはなかったが、ダンプ松本は『極悪』というアルバムを発売している。ここでは紹介できなかった作品も含め、昭和の時代を飾った女子レスラーたちの歌声は永遠です。

かけめぐる青春
ビューティ・ペア
（ビクター：RVS-1038【現在廃盤】）

1976 年発売。B 面は「真夜中のひとりごと」。80 万枚を売り上げたビューティ・ペアのデビュー・シングル。この曲の大ヒットで女子プロレス界のアイドル的存在に。

夢見るナンシー
ナンシー久美
ジャケット提供：日本コロムビア【現在廃盤】）

1977 年発売。B 面は「ロックンロール・ベイビー」。サウンド＆歌詞ともにアイドル路線の快作。ナンシーさんは現在、清心館空手道連盟総本部付指導員さんです。

愛のジャガー
ジャガー横田
（徳間ジャパンコミュニケーションズ（廃盤））

1983 年発売。B 面は「マイフレンド」。今や恐妻家として知られるジャガーが放ったデビュー・シングル。アイドルを意識したアップテンポの曲で愛がテーマ。軽快です。

インベーダー WALK
マキ上田
（徳間ジャパンコミュニケーションズ（廃盤））

1979 年発売。B 面は「あいつはインベーダー」。マキ上田が現役引退後に放った一枚。当時のインベーダー人気にあやかった衝撃の一品。B 面にもインベーダーが…。

炎の聖書
クラッシュ・ギャルズ
（ビクター：SV-7420【現在廃盤】）

1984 年発売。B 面は「熱風撫子」。絶大な人気を誇った長与千種とライオネス飛鳥によるタッグのデビュー・シングル。計 8 枚のシングル、7 枚のアルバムを発売。

闘う男たちが残した シングル・レコード

昭和の時代は、プロ野球選手やプロレスラー以外にも、プロボクシングの世界チャンピオン、偉大な空手家、大相撲の人気力士など様々な人気プロスポーツ選手にとって、レコードを出すことがひとつのステイタスだった。大相撲で高見山などと同時代に活躍した増位山は、演歌歌手としても現役時代に多数のレコードを発売し、1977 年発売の「そんな女のひとりごと」は 130 万枚の大ヒットを記録。その歌の上手さでは別格の存在だったが、極めて個性的で魅力的なキャラクターと共にそれぞれの世界で頂点を極めた男たちの歌声も素敵だ。ここに紹介した闘う男たちが残した 5 作品以外にも貴重な音源が残されているが、機会があればそれぞれバリバリの現役時代の姿を捉えたジャケット写真と共に全盛期の歌声を聴いてみて欲しい。

ボクシング小唄
ファイティング原田
（キング：BS-408【現在廃盤】）

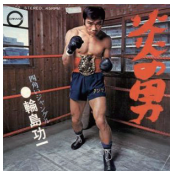
1966 年発売。B 面は「恋のタイトルマッチ」（西川一也）。元世界フライ＆バンダム級王者の一枚。コーラスはサニー・トーンズ。ビートルズの来日と同時期に発売された。

ゴッド・ハンドのテーマ
大山倍達
（キング：GK-399【現在廃盤】）

1980 年発売。B 面は「極真への道　大山倍達・座右銘」。演奏はキング・オーケストラ。B 面は重々しいストリングスをバックに大山倍達による語り・息吹きを収録。

石松おとこ節
ガッツ石松
（徳間ジャパンコミュニケーションズ（廃盤））

1974 年発売。B 面は「男なら」。元 WBC 世界ライト級王者の一枚。ガッツのセリフから入る男の演歌。歌もなかなかの OK 牧場。トランペットと演歌ギターも渋い。



炎の男
輪島功一
（キャニオン：A-201【現在廃盤】）

1972 年発売。B 面は「四角いジャングル」。元 WBA・WBC 世界ジュニアミドル級王者の一枚。ニックネームがタイトルに付けられ、今のお茶目な姿とは別人のようだ。

スーパー・ジェシー
高見山大五郎
（EMI ミュージック・ジャパン【現在廃盤】）

1977 年発売。B 面は「夢見るジェシー」。外国人初の関取で大人気だった高見山の一枚。演奏はリッキー＆1960 ポンド。ファンキーなディスコ・サウンドがカッコいい。